

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
人間理解の基礎	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位(16時間)	必須	鎌田寿子/程内ゆみ子/徳竹律子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本授業は、様々な立場にある人の経験談や学生自らの体験をとおして、学生が自ら主体的に考える授業である。学生は、本授業をとおして様々な人の体験や価値観に触れ、あらためて看護の対象である「人間」についての理解を深める。さらに、学生が自ら主体的に感性を磨くとともに、生きること、倫理観や専門職業人としての意識や責務、人により添う姿勢等を考え、自己成長を促進できる機会とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>1. 「人」とはどういう存在なのかを考え、人に寄り添う姿勢について考える機会となる。 2. 社会人として、看護師として自己の社会的役割の認識と将来像を確立できる機会となる。</p> <p>【準備学習】次回の授業内容をふまえて関連する事項または課題について予習して臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	「人」どうい存在か	1. 本授業のねらいと学習内容、学習方法 学生間ディスカッション等	自由に自分の考えを述べる、 他者の考えを聞く、共感、意見交換
2	特別講義・外部研修等	下記内容等をテーマとして主体に学ぶ	看護の役割、看護への期待 自己理解、他者理解、多様性、共感 健康障害をもつ人の理解 生きるとは、生きがい
3		*出席した内容について課題レポート提出	
4		<テーマ>	
5		1. 看護の日記念講演に参加 2. 自分と他者の理解を深める 3. 患者・家族支援/疾病をもちながらよりよく生きる 4. 生きることや他者の人生観にふれるテーマ	
6	ボランティア	地域活動、施設や病院等におけるボランティア活動を通じて社会貢献ならびに人間力を高める	ボランティアとは、多様な人々との協働 自分との対峙
7	ボランティア	学生が自ら主体的に計画し参加していく *必ず事前に教員に相談・報告のこと	
8	ボランティア	*参加後の報告書・レポート提出	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
必要に応じて資料配付		1)授業出席状況(出席・授業態度)を含めて、課題レポートにより総合的に評価 2)ボランティア活動3回は必修項目とする 3)特別講義を欠席した場合、他の講義や研修会を受講しレポートを提出する。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床薬理学	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	二宮 昌樹/芳地 一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医学の進歩とともに、薬物の開発・研究がさかんに行われ新薬が誕生し、膨大な数の薬物が存在している。医療安全のより一層の確保を期する必要から、薬剤管理の面でも看護業務の拡大が進んでいる。そこで本科目では、基本的な薬物についてそれらの作用機序、薬物間の相互作用、薬物代謝、薬物取り扱いの基本的事項を学習し、患者が安全に安心して薬物治療を受けることができるよう看護実戦に必要なスキルを身につける。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.薬物が生体に及ぼす影響と薬理作用について説明できる。 2.個々の薬物の基礎知識、薬物の安全性、有毒性について説明できる。 3.各種疾患に対して使用される薬物の適用方法、化学療法、輸血療法について説明できる。 4.与薬時の看護師の役割と注意事項を考慮することができる。 <p>【実務経験】二宮昌樹 芳地一:薬学部・医学部にて研究活動ならびに教育経験や薬剤師としての豊富な実務経験を有する薬物に関する基礎的な知識習得をめざし事例等活用して授業を展開する</p> <p>【準備学習】授業の復習と次回の授業内容についてテキストにて予習して臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	医薬品総論	1) 医薬品 2) 医薬品の作用原理とその影響 3) 医薬品の適正な使用に向けて	医薬品の分類、医薬品に関連する法律 薬物の投与経路と薬物動態、薬物有害反応 医薬品使用時の注意点、処方から投与、5R 発症過程と使用薬剤の機序
2	主な生活習慣病に使用する薬	1) 生活習慣病 2) 高血圧 3) 狭心症 4) 心筋梗塞 5) 不整脈 6) 心不全	服薬指導 インスリン自己注射の患者教育
3	がん・痛みに使用する薬	1) がん使用する薬	抗がん薬の分類と作用、有害作用とその対策 WHO除痛ラダー、ペインスケール オピオイド鎮痛薬の特徴と有害作用
4		2) がん性疼痛に使用する薬 3) その他の痛みに使用する薬	
5	感染症に使用する薬	1) 細菌感染症 2) ウィルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫感染症 5) 消毒薬 6) 予防接種薬	各感染症に用いられる治療薬の作用機序 薬物有害反応 消毒薬の適応と有害作用 予防接種の種類、副反応
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	1) 中枢神経系の働きと薬	脳における神経伝導物質 各種薬剤の分類、薬理作用と有害反応
7		2) 抗てんかん薬 3) パーキンソン病治療薬 4) 向精神薬 5) アルツハイマー型認知症治療薬 6) 脳血管障害(急性期)の薬物治療	
8	救急救命時に使用する薬	1) 医薬品投与に関連する緊急状態	ショックを引き起こしやすい医薬品 ショック使用時の薬と作用・有害反応 加量投与、誤薬
9		2) ショックに対して使用する薬 3) 医薬品に関連した中毒に使用する薬 4) 救急カートに必要な薬 5) 麻酔に使用する薬 6) 輸液	
10	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	1) 気管支喘息と薬物療法	全身麻酔薬、局所麻酔薬、麻酔補助薬 輸液の種類・投与時の注意点 薬剤の分類、薬理作用と有害反応 鎮咳薬、去単薬 抗リウマチ薬・非ステロイド薬の作用と有害反応
11		2) 呼吸器疾患に使用する薬 3) 関節リュウマチと薬物療法 4) 全身性エリトマトーデストと薬物療法	
12	1) 消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴	消化器系疾患に使用する薬の分類 薬理作用と有害反応	
13	その他の症状に使用する薬	臨床でよく遭遇する10疾患に使用する薬と服薬指導	各薬剤の作用機序と有害反応 服薬指導
14			
15	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・古川 裕之他:ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 ・必要に応じて資料提示		科目終了時の最終試験100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護と法律	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	渡邊 照代(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護の現場、実践において生じている様々な問題を制度・法律との関連で解決するために、また、人々の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健医療福祉サービスを評価し調整するために必要な、保健医療福祉の法的基盤を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護職の身分、活動を保健師助産師看護師法に基づき説明できる。
2. 保健医療福祉の関係機関や関係職種の機能や役割を説明できる。
3. 生活者の健康を守る医事、薬事、保健衛生、生活衛生、社会福祉関連法規の目的、理念について説明できる。

[実務経験] 渡邊照代: 看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護管理者・看護師の経験を教材とし学生が学びやすい工夫をする。

[準備学習] 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。□

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	法規の概念	1)人間の生活と法律 2)法律の基礎知識 3)生活者の健康と法律	法規の分類
3 4	医事法規	1)保健師助産師看護師法	関係職種の役割を法的根拠に基づき理解
5		2)看護倫理綱領	
6		3)医療関係者の理解 医師、歯科医師、歯科衛生士、診療放射線技師 臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士	
7		臨床工学技士、救急救命士、栄養士等	
8		4)看護師等人材確保の促進に関する法律 5)医療法	
9 10	関連法規	1)保健衛生法規の概要 2)保健衛生法規の概要	} ・各法令の目的、理念の理解 ・関係機関や関係職種の理解
11		3)社会福祉関連法規の概要	
12		4)労働関連法規の概要	
13 14		1)国の政策と看護の動向 2)国の政策と看護の動向	
15	まとめ 試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

今西 春彦他: ナーシンググラフィカ
健康支援と社会保障④ 医療関係法規

[参考文献]

- ・門脇豊子編: 看護法令要覧、日本看護協会出版会
- ・看護六法

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価 100%

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
保健指導論	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
23回	2単位(46時間)	必須	松原文子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人々が自ら健康問題や課題に気づき保健行動がとれるよう支援するために、人々の保健行動の特性と効果的な介入方法、個人や集団における教育方法、組織化について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健指導の目的・特徴について説明できる。 2. 保健指導に活用できる理論について、具体例を示して説明できる。 3. 保健指導の展開過程と必要な技術について説明できる。 4. 健康教育の目的・対象・教育を行う効果について説明できる。 5. 健康教育の進め方や効果的な媒体づくりの説明ができる。 6. グループ育成、組織化にむけた支援について有効な理論・基礎的な考え方や技術を説明できる。 <p>【実務経験】松原文子:保健師として5年以上の実務経験。 地域にける保健活動経験を教材として保健指導のための基礎的知識・技術の習得を支援する。</p> <p>【準備学習】授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。□</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	保健指導に活用できる	1) 保健行動理論	<ul style="list-style-type: none"> ・健康信念モデル ・自己効力感 ・変化のステージモデル ・計画的行動理論 ・ストレスとコーピング ・ソーシャルサポート ・コントロール所在
2	理論	2) 保健指導に活用できる理論	
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	日本の健康問題	1) 日本の健康問題の現状について	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育で取り上げる課題 ・企画と計画 ・周知方法 ・評価(効果効率の測定) ・健康教育(グループワーク)の実際 ・媒体(パンフレット・リーフレット パネル・スライド・ポスター)
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	保健指導の展開	1) 保健指導技術	
13	〃		
14	〃		
15	健康教育とは	1) 健康教育と看護師の役割	
16	健康教育の展開	2) 健康教育の実践	
17	〃	3) 健康教育の進め方	
18	〃	①計画化と準備	
19	〃	②教育実践の中のおさえ	
20	〃	③実施および評価	
21	〃	4) 参加者体験型健康教室	
22	患者会・家族会	①企画	
23	〃	②プログラムづくり	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・松本千明:医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社 [参考文献] 国民衛生の動向		1)健康教育媒体づくり、発表、参加状況等: 70% 2)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験): 30%	

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護疫学・保健統計	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	松本 美称 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 社会のニーズを把握して、そのニーズに沿った支援を行うため、集団の健康現象と健康に影響する諸条件をとらえる疫学の基礎的理論と調査・分析・活用方法に必要な統計学の基本的な知識および看護活動の実際に必要な知識について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 疫学概念、考え方、およびアプローチについて説明できる。 2. 疫学の意義と定義、多要因疾病観について説明できる。 3. 各種保健統計調査について説明できるとともに、統計結果の意味と現状と推移について述べる事ができる。 4. 統計学の基礎的な内容について説明できる。</p> <p>【実務経験】松本美称:保健師として5年以上の実務経験。 疫学・保健統計の必要性、統計結果の意味と活用について、実際の統計結果を用いながらわかりやすく理解できるよう授業方法を工夫する。</p> <p>【準備学習】授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。□</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	疫学概念と歴史	1)疫学概念	疫学の定義 看護における疫学の意義
2	〃	1)疫学の歴史	
3	疫学研究	1)疫学研究の概念 2)疫学研究方法 ・標本抽出 ・記述研究	看護研究と疫学 標本抽出法
4	〃	1)横断研究 生態学的研究 2)症例対照研究とコホート研究	
5	〃	1)相対危険と寄与危険 2)オッズ比	
6	疾病頻度の指標	1)疾病指標の概念	有病率 罹患率(累積罹患率) 致命率
7	〃	2)疾病指標	死亡率 指標の相互関係
8	保健統計調査	1)保健統計調査	人口静態統計 人口動態統計
9	〃	〃	出生率 死亡率 死因統計 死産と乳幼児死亡 婚姻と離婚 平均寿命 その他の保健統計調査
10	スクリーニング	1)予防とスクリーニング	
11	〃	〃	
12	疾患の疫学	1)おもな疾患の疫学	
13	統計学の基礎	1)疫学と統計学	データをまとめる意義
14	〃	2)データの見方	グラフの特徴
15	〃	代表値・平均・散布度・標準偏差 平均値・中央値・最頻値・パーセンタイル値・相関 EXCEL統計処理	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・木下秀一著:基本からわかる看護疫学入門 第3版 医歯薬出版株式会社,2017. ・国民衛生の動向		1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人看護方法論Ⅳ (消化器・生殖)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必 須	細川克美/鎌田寿子 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

患者の身体に生じている現象、消化機能障害、生殖器機能障害を理解し、療養生活上の世話と終末期のQOLを高める援助方法を学ぶ。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
- 2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。
- 3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。

[実務経験]細川・鎌田:看護師5年以上の実務経験。

臨床での看護事例を用いて、わかりやすい授業を工夫する。

[準備学習]授業の復習ならびに次回授業内容をテキストを用いて予習する。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	消化機能に障害のある患者の看護	1) 看護に必要な知識と技術 消化器疾患における近年の医療の動向と看護 消化器の構造と機能	
2	〃	2) 消化器症状に対する看護 主要症状の発生機序・病態生理と関連させた看護の方法	・消化・吸収機能障害 ・食欲不振 嘔吐 イレウス 下痢 ・便秘 吐血 下血 腹部膨満
3	〃	3) 消化器障害で検査を受ける患者の看護 造影検査を受ける患者の看護 内視鏡検査を受ける患者の看護 肝生検他うける患者の看護	・血管造影 ・上部・下部消化管内視鏡検査
4	〃	4) 消化器障害で治療・処置を受ける患者の看護 薬物療法	
5	〃	食事療法	・薬物療法を受ける患者
6	〃	化学療法	・外科的療法を受ける患者
7	〃	手術療法(周手術期に起こる生体の変化) 術前・術中・術後の看護	
8	〃	5) 疾患を持つ患者の看護 急性期	
9	〃	回復期	
10	〃	慢性期	
10	乳腺の疾患	乳房切除をうける患者の看護	
11	生殖器系に障害のある患者の看護	性ホルモン障害の治療と看護	・ホルモン療法 ・放射線療法 ・化学療法
12	〃	性・生殖機能障害の検査・治療と看護	
13	〃	診察・検査と看護	
14	〃	治療と看護	
15	〃	前立腺摘出後の患者の看護	
	試験	上記終了後、期末試験	★理解度確認テスト

[使用テキスト]

林正 健二 編:ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑥
内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害

林正 健二 編:ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦
疾病と治療

林正 健二 編:ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①
解剖生理学

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験評価(筆記試験):100%

[学習態度・授業参加状況(遅刻・早退を含む)]

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
リフレクションⅡ(成人・老年)	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30 時間)	必須	山下 美紀/林 晶子 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、臨地実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。そこで、本科目では、臨地実習の実践を振り返る探求的な方法の一つとして「看護リフレクション」の概念を用いて学習を展開する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。 2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを説明することができる。 3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がり説明できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。 <p>【実務経験】林晶子・山下美紀:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】□ リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護とリフレクション	1)臨地実習における看護実践と看護経験 2)看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画
2	成人看護学実習 看護リフレクションの実際	事例の紹介	看護の基本姿勢の理解 ・セルフケア理論 ・役割理論
3	〃	1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	人間の心理行動の理解
4	〃	2)援助の意味、援助の価値	・ストレス・コーピング理論
5	〃	3)行ったケアの評価	・不安 危機理論 ・自己概念、自尊感情
6	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	・ボディイメージ、共感 病気の受容過程の理解 ・障害の受容過程 予期悲嘆
7	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備 2)スライドの最終チェック	看護援助、看護教育への活用 ・エンパワメント理論 ・アンドラゴジー成人教育理論
8	事例発表	1)発表・まとめ	文献の活用 振り返り、十分に思考する
9	老年看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク 2)事例の紹介	看護援助、老年看護教育 ・エリクソンの自我発達理論
10	〃	1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	・エイジング
11	〃	2)援助の意味、援助の価値	・ジェロロジー
12	〃	3)行ったケアの評価	・不安 危機理論 ・ソーシャルサポート
13	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	・対象喪失 ・死の受容過程
14	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備 2)スライドの最終チェック	文献の活用 振り返り、十分に思考する
15	事例発表	1)発表・まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
実習時に使用したテキストなど		1)授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	林 晶子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 老年期の発達課題や特徴、心身機能を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期の健康レベルを踏まえ、健康障害によって生じる反応をアセスメントし、看護過程の展開ができる。またその家族についても考えることができる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象と家族を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。 2. 対象を支えるその家族について理解できる。 3. 患者や家族を支えるチーム医療について理解できる。 4. 患者や家族を支える社会資源について理解できる。</p> <p>【実務経験】林晶子:看護師として5年以上の実務経験。 アセスメントから計画立案まで一貫した思考ができるよう演習を工夫する。</p> <p>【準備学習】□ 老年期の特徴、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	老年期の特徴についての復習 老年期の看護過程について	老年期の加齢に伴う変化のメカニズムを人体の機能・構造から理解し、アセスメントの方法を理解する。	・複数の疾患を持つ高齢者の特徴理解
3 4	事例紹介 老年期の看護過程展開	クラスタリング アセスメント	・事例を挙げて看護展開する ・加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を捉える ・残存機能を活かした計画立案
5	〃	関連図 看護計画立案	・老年期の発達課題 ・老年期の特徴を活かし、目標志向型の看護過程を展開する
6	発表	発表 ディスカッション	・これまで生きてきた長い時間を受け止め、肯定し、喪失体験やできないことばかりに目を向けるのではなく、今できている事、好きな事得意なことなどを、本人の強みとしてとらえその人らしさ、価値観を大切にすることを重視する。
7 8	がん化学看護 がん性疼痛	がん看護認定看護師による講義 化学療法を受ける患者家族への在宅支援 がん看護認定看護師による講義 痛みの評価と疼痛緩和、意思決定ならびにQOL	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害 堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践		1)科目終了時の最終試験評価(筆記試験) 50% {学習態度 授業参加状況(遅刻・早退を含む)} 2)提出物 30% 3)7.8については提出課題 20%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																								
小児看護方法論Ⅲ	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習																																								
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者																																								
8回	1単位(16 時間)	必須	榊原 智子 (実務経験有)																																								
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>障害をもつ小児とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程展開の方法を、主にペーパーシュミレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の主な疾患事例の対象と家族に必要な情報を系統的に収集できる。 2. 収集した情報に対してアセスメントができる。 3. 対象の状態を看護診断し、目標設定できる。 4. 看護計画が立案できる。 <p>【実務経験】榊原智子:看護師として5年以上の実務経験。 アセスメントから計画立案まで一貫した思考ができるよう演習を工夫する。</p> <p>【準備学習】□ 小児期の特徴、疾患に罹患している小児や保護者の思いを想起し、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p> <p style="text-align: center;">[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 25%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小児の主な疾患事例を用いた看護過程の展開</td> <td>1)事例の提示 演習の進め方ガイダンス (1)気管支喘息 (2)川崎病</td> <td>・病態生理の理解 ・1事例選定し、調べ学習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>2) 演習1 第1、第2アセスメントのポイント</td> <td>【演習1】 ・情報収集/クラスター分類/アセスメント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>3) 演習2 わかりやすい関連図の書き方</td> <td>【演習2】 ・関連図の作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>4) 演習3 看護上の問題の明確化・優先度の設定</td> <td>【演習3】 ・看護上の問題の明確化</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>5) 演習4 看護計画立案</td> <td>【演習4】 ・看護計画の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>6) 演習5 プリパレーションツールの作成と実践記録</td> <td>【演習5】 ・プリパレーションツールの作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>7) 8) 発表 関連図の発表</td> <td>手術の説明、点滴、採血、吸入、指導など</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>看護計画の発表 プリパレーションツールの発表 ・グループごとに発表し学びを共有する</td> <td>・課題レポート: 関連図・看護計画 プリパレーション実践記録</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	小児の主な疾患事例を用いた看護過程の展開	1)事例の提示 演習の進め方ガイダンス (1)気管支喘息 (2)川崎病	・病態生理の理解 ・1事例選定し、調べ学習	2	〃	2) 演習1 第1、第2アセスメントのポイント	【演習1】 ・情報収集/クラスター分類/アセスメント	3	〃	3) 演習2 わかりやすい関連図の書き方	【演習2】 ・関連図の作成	4	〃	4) 演習3 看護上の問題の明確化・優先度の設定	【演習3】 ・看護上の問題の明確化	5	〃	5) 演習4 看護計画立案	【演習4】 ・看護計画の作成	6	〃	6) 演習5 プリパレーションツールの作成と実践記録	【演習5】 ・プリパレーションツールの作成	7	〃	7) 8) 発表 関連図の発表	手術の説明、点滴、採血、吸入、指導など	8	〃	看護計画の発表 プリパレーションツールの発表 ・グループごとに発表し学びを共有する	・課題レポート: 関連図・看護計画 プリパレーション実践記録		試験	上記終了後、期末試験	
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																								
1	小児の主な疾患事例を用いた看護過程の展開	1)事例の提示 演習の進め方ガイダンス (1)気管支喘息 (2)川崎病	・病態生理の理解 ・1事例選定し、調べ学習																																								
2	〃	2) 演習1 第1、第2アセスメントのポイント	【演習1】 ・情報収集/クラスター分類/アセスメント																																								
3	〃	3) 演習2 わかりやすい関連図の書き方	【演習2】 ・関連図の作成																																								
4	〃	4) 演習3 看護上の問題の明確化・優先度の設定	【演習3】 ・看護上の問題の明確化																																								
5	〃	5) 演習4 看護計画立案	【演習4】 ・看護計画の作成																																								
6	〃	6) 演習5 プリパレーションツールの作成と実践記録	【演習5】 ・プリパレーションツールの作成																																								
7	〃	7) 8) 発表 関連図の発表	手術の説明、点滴、採血、吸入、指導など																																								
8	〃	看護計画の発表 プリパレーションツールの発表 ・グループごとに発表し学びを共有する	・課題レポート: 関連図・看護計画 プリパレーション実践記録																																								
	試験	上記終了後、期末試験																																									
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																									
中野 綾美 編:ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 中野 綾美 編:ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 中村 友彦 編:ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護		1)科目終了時の最終試験(筆記試験)の評価:90% 2)プリパレーション評価:10% {学習態度 授業参加状況 (遅刻・早退を含む)}																																									

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
リフレクションⅢ(小児・母性)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30 時間)	必須	松本 美弥/榊原 智子 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>本科目では、臨地実習で体験した母性・小児の事例を素材にして、経験の中から気にかかる問題に対する看護の内的な吟味および探求を行い、意味づけを行ったり価値を明らかにする。自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。本科目では、臨地実習の実践を振り返る探求的な方法の一つとして「看護リフレクション」の概念を用いて学習を展開する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習での事例を基に、リフレクションしたい内容を記述したり語ることができる。 2. 事例の内面で起こっていたことを振り返り、そこに起こった価値や重要性を考察できる。 3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。 <p>【実務経験】松本・榊原:助産師(松本)・看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】<input type="checkbox"/> リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護とリフレクション	1)臨地実習における看護実践と看護経験 2)看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合→行動計画
2	母性看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	文献の活用 理論の活用
3	〃	事例紹介 1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	・母子相互作用、愛着理論
4	〃	2)看護援助の意味、援助の価値	・ソーシャルサポート理論
5	〃	3)行ったケアの評価	
6	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	振り返り、十分に思考する
7	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備 2)スライドの最終チェック	
8	事例発表	1)発表・まとめ	
9	小児看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク 2)事例の紹介	文献の活用 理論の活用
10	〃	1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	・ピアジェの認知発達理論
11	〃	2)看護援助の意味、援助の価値	・親子関係論:ボウルビイの愛着理論
12	〃	3)行ったケアの評価	・家族システム理論 ・家族ストレス対処理論 ・セルフケア理論
13	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	小児看護技術 ・プレパレーション ・デストラクション
14	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備 2)スライドの最終チェック	振り返り、十分に思考する
15	事例発表	1)発表・まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
実習で使用したテキストなど		1)授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
母性看護方法論Ⅱ (産褥・育児)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
23回	2単位 (45 時間)	必 須	高橋 美佐子(非常勤)/ 実務経験有

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、褥婦および育児期にある女性の心身の変化を捉えてアセスメントし、基礎的看護実践能力を習得する。また、紙上事例演習では、授業方法として演習も取り入れるので、臨場感を持って真摯に学ぶことを期待する。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 産褥期・育児期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。
2. 産褥期・育児期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。
3. 産褥期・育児期にある女性をゴードン適応看護モデルを用いた紙上事例による展開ができる。

[実務経験]高橋:助産師およびとして5年以上の実務経験。

臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

[準備学習]□

授業内容の復習ならびに次回授業内容をテキストによる予習。また、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	
1	新生児の看護	1) 新生児の生理学的適応 【1-13高橋美佐子】	中性温度環境、生理的黄疸	
2		2) 早期新生児の看護ケア		
3	褥婦の看護	産褥期の身体的変化と適応	全身の変化、生殖器の変化	
4		・子宮収縮状態の観察		
5		褥婦のフィジカルアセスメントと看護ケア		
6		産褥期の心理社会的変化		
7		帝王切開後の褥婦の看護ケア		
8				
9		母乳育児と看護		ラッチ・オン
10		1) 乳汁分泌のメカニズム 2) 母乳育児支援		
11	産褥の異常と看護	子宮復古不全、産褥期の発熱		
12				
13		前半 まとめ		
14	事例による看護過程の展開	紙上事例演習 【14-23岡田佳子】	情報収集	
15	・事例検討 1 ・事例検討 2	・マタニティサイクルにおける看護の特徴	クラスター分類	
16		・ヘルスプロモーション型看護診断		
17		正常産褥事例	一次アセスメント	
18		帝王切開術事例	二次アセスメントと関連図	
19			看護計画立案	
20				
21				
22				
23		まとめ	評価	

[使用テキスト]

横尾京子他:ナーシン・グラフィカ母性看護学①, メディカ出版、2016.

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)最終試験評価:100%
(態度・出席率含む)

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
精神看護方法論Ⅰ (症状別看護)	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	非常勤講師 実務経験有

[授業の目的・ねらい]

精神の健康障害を持つ対象として捉え、患者自身の抱える精神症状や状態の理解と、検査および治療における看護について学ぶ。精神看護の基本的な考え方や援助方法を理解し、対象の立場に身を置き相手の感じ方や見方・考え方に理解を示すこと(共感的理解)で、対象のみではなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 当事者にとって「精神を病む」体験とはどのようなものか説明できる。
2. 精神看護の「症状・状態のとらえ方」について説明できる。
3. 精神障害者の基本的な症状(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の、さまざまな精神症状について説明できる。
4. 精神科における診断および治療について説明ができる。

【実務経験】看護師として5年以上の実務経験。

看護実践経験を教材とし、学生が学びやすいよう授業方法を工夫する。

【準備学習】□

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いて予習して授業に臨む。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	精神症状と診断・分類	1. 精神症状について 2. 精神疾患の診断と分類	
3 4 5 6	主な精神疾患と看護	3. 精神作用物質による精神障害 1) 統合失調症 2) 神経症性障害 3) 心的外傷後ストレス障害(PTSD) 4) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント * 気質性精神障害には、どのようなものがあるのか
7 8	主な精神疾患と看護 医学的検査と心理検査	5) 人格(パーソナリティ)障害 5. 医学的検査と心理検査 1) 臨床検査における看護の役割 2) 心理検査の種類とその特徴について	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント 医学的検査と心理検査の種類を整理しておこう
9 10	精神科における治療 に対する看護	6. 精神医療における治療の考え方 7. 精神科治療に関わる療法の特徴 1) 薬物療法・電気けいれん療法(ECT) 2) 精神療法 3) 社会療法・環境療法	向精神薬の種類を整理しておこう 行動制限、無断離院、SST
11	嗜癖・依存・	8. 嗜癖と依存と反社会的行動との関係と治療および看護の特徴 1) アルコール依存症 2) 薬物依存 3) 逸脱行動	精神依存と身体依存 家族への援助
12 13 14	主な精神疾患と看護 プロセスレコード	3. 精神作用物質による精神障害 6) 気分障害 9. プロセスレコード 1) 対象者との関係を客観視するためのプロセスレコード 2) 対象の理解、ニーズの判断、必要とされる援助の実施と評価	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント 患者-看護師関係をアセスメント
15	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本
メディカ出版
・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践
メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
在宅看護方法論Ⅲ(技術)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	林 晶子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

在宅看護方法論Ⅲ(技術)では、在宅看護の実践に必要な看護援助の基本を学ぶ。在宅療養者とその家族のセルフケア能力を最大に生かし、個々の家庭の状況をふまえてその状況に応じた生活支援に必要な看護援助について学ぶ。具体的には、日々の生活に欠かすことのできない日常生活行動への援助技術について学ぶ。さらに、医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助技術について具体的に学ぶ。学習においては自ら主体的に学ぶことを期待する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 在宅療養者と家族の生活支援のための看護援助について理解できる。
2. 在宅で療養する意味を理解し、日常生活を中心とした在宅看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。
3. 医療依存度の高い在宅療養者と家族への看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。
4. 自ら主体的に、授業・課題に取り組むことができる。

【実務経験】林晶子:看護師として5年以上の実務経験。

在宅・地域での看護実践経験の教材化、また、学生の能動的学習の促進が図れるよう工夫する。

【準備学習】□

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	訪問看護の概要・理念	1. 家庭訪問の意義と訪問時のマナー 1) 面接の方法・技術	・信頼関係の形成 ・看護師に必要とされる資質、マナー
2	家庭訪問の意義とマナー	2) 信頼関係の形成	
3	主体的意思決定支援	2. 主体的意思決定の支援	・権利擁護とエンパワーメントの支援
3	在宅酸素療法を必要とする療養者の援助	1. 在宅酸素療法の目的と適応 2. 在宅酸素供給装置の特徴 3. 療養者・家族への支援とQOL	・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント ・QOLの視点と支援
4	在宅人工呼吸療法を必要とする療養者の援助	1. 侵襲的人工呼吸療法の概要と適応 2. 発生しやすいトラブルと援助 3. 療養者・家族の支援と社会資源	・アセスメントの視点と援助の方法 ・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント
6	在宅における認知症高齢者の看	1	
		2	
7	在宅におけるエンドオブライフケ	1	
		2	
8			
9	在宅療養者の日常生活援助	1. 家庭における基本的な生活援助	・アセスメントの視点と援助の方法
10	〃	1) 住環境	・支援・教育のポイント
11	〃	2) 食生活 在宅経管栄養・中心静脈栄養	・家庭での工夫
12	〃	3) 排泄 膀胱留置カテーテル	・QOLの視点
13	〃	4) 清潔	・発生しやすいトラブル
14	〃	5) 移動・活動	・社会資源の活用
15	〃	6) 服薬管理 7) 感染予防 グループワークを行い、発表ロールプレイ	
	試験	上記終了後前期末試験	

[使用テキスト]

臺 有桂 編:ナーシンググラフィカ
地域療養を支えるケア
在宅療養を支える技術

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 概 要 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域看護学	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	松原 文子(非常勤)実務経験有 近藤 幸子(非常勤)実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 人々の本来の生活の場である地域(コミュニティ)の意義、そこで主体的に生活して保健活動を行っている住民や住民の活動を支援している行政機関や保健福祉機関の活動を学ぶとともに、対象が生きがいを持ち健康な生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 地域看護学の理念と目的並びに基本概念について説明できる。 2. 地域看護学の活動分野、対象、方法について特性を踏まえて説明できる。 3. 地域コミュニティを軸とした協働の町づくりの実際について説明ができる。 4. 健康や生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について説明できる。</p> <p>[実務経験]松原文子・近藤幸子:保健師として5年以上の実務経験。 地域での看護実践経験を教材に学生がわかりやすいよう授業を工夫する。</p> <p>[準備学習]□ 授業の復習と次回の授業内容をテキストにて予習。必要に応じて調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域看護学の成立の基盤	1) 地域看護学の歴史と定義 【1-10松原文子】 2) 地域看護学の理念と目的 3) 地域看護学の基本的概念	
2	地域看護活動の構成	1) 活動の領域 ① 公衆衛生看護	地域と人口集団を対象とした看護 地域を基盤にした看護
3	〃	② 在宅看護	
4	〃	2) 活動対象の特性	
5	〃	3) 社会での生活者としての個人の理解	
6	地域の概要と環境の理解	1) 自然・文化・社会	
7	地域ヘルスケアシステム	1) 地域ヘルスケアシステム	地域ヘルスケアシステム ヘルスプロモーションと1～3次予防
8	と社会資源	2) 地域で活用できる社会資源について	
9	住民活動を支援している行政機関	1) 住民活動を支援している行政機関や保健福祉機関の活動	
10		2) 住民を支援する看護職の役割と必要な能力	
11	地域に向けた看護活動	1) 慢性疾患を持ちながら地域で生活している人への看護 【11-15近藤幸子】	
12	〃	2) 健康なライフスタイルへの支援 ① 外来で生活に即した保健指導	
13	〃	② 行動科学の理論を用いた個別の患者教育 ③ 小集団への外来利用者への教育	
14	〃	3) 施設で行う患者教育と健康教育 4) 地域に向けた看護活動	
15	地域コミュニティ	1) 地域コミュニティの意義 2) 住民の主体的活動と住民組織	
14	〃	3) 住民活動を支援している行政機関や保健福祉機関の活動	
15	〃	4) 住民を支援する看護職の役割と必要な能力	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験等の評価方法)	
適宜紹介 [参考テキスト] ・木下由美子編集代表:エッセンシャル地域看護学 第2版医歯薬出版会. ・国民衛生の動向		1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護研究 I (基礎)	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	榊原 智子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

研究とは、新しい知識を発見し、一般化していく営みであり、看護職者が専門職として自律するために欠かせない領域である。本科目は「看護の統合分野」として位置づけ、「看護研究」とは何か、看護研究の種類、看護研究に取り組む、あるいは研究論文を臨床の場で活用するために、最近の研究の動向や研究方法の特徴・進め方に関する基礎的知識を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護実践における研究の意義と目的を理解し説明ができる。
2. 研究過程を理解し、研究目的に適したデザインを説明できる。
3. 文献活用の必要性と文献検索の方法を理解して文献検索ができる。
4. 事例研究の意義と研究計画書の作成方法を説明できる。
5. 研究における倫理上の配慮と責務を認識して説明ができる。

【実務経験】榊原智子: 看護師として5年以上の実務経験。

研究の基礎的知識の習得と興味関心がもてるよう、学生の能動的学習の促進を図る。

【準備学習】□

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護職を取り巻く 社会の現状と課題	医療や看護取り巻く現状について	
2	看護研究とは	1) 看護研究の目的、意義 2) 臨床看護現象を説明する「中範囲理論」	実践から生まれる研究疑問
3	ケーススタディ	3) 研究のステップ	研究の進めかた
4	中範囲理論①	1) 主な中範囲理論 グループ学習	事例研究、事例検討 調査研究、実験研究、 KJ法、GTAなど
5	中範囲理論②	2) まとめ、発表	
6	文献検索①	文献検索の方法、医学中央雑誌、 CiNii論文検索	文献カード
7	文献検索①	1) 文献の種類 2) 文献の読み方 3) クリティークの仕方	文献クリティーク
8	クリティーク①	実際に文献をよんでみよう①	
9	クリティーク②	実際に文献をよんでみよう②	
10	クリティーク③	実際に文献をよんでみよう③	
11	看護研究の倫理的配	倫理的配慮	
12	事例研究の進め方①	1) 事例研究のテーマと動機 2) 先行研究の検索	研究計画書
13	事例研究の進め方②	3) 研究目的 4) 結果、考察、結論	
14	口頭発表	1) 口頭発表の原稿作成ポイント	
15	まとめ	2) スライド作成ポイント	

[使用テキスト]

川村 佐和子編: ナーシンググラフィカ基礎看護学④
看護研究

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了試験 80%
- 2) グループ学習の参加度と発表 20%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																																																							
救急蘇生法Ⅱ	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習・実習																																																							
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																							
15回	1単位(30時間)	必須	山川 俊紀 (非常勤) 実務経験有																																																							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>2000年にアメリカ心臓学会が発表した心肺蘇生に関するガイドラインを契機に、心肺蘇生に対する役割はますます高まってきている。さらに救急医療の高度化に伴い、致命的状況からの救命率も上昇してきている。救命後のQOL (quality of life)は、できるだけ早期に心肺機能を回復させ生体へのダメージを少なくできるかどうかで左右される。看護において心肺蘇生法とは、基本的な看護技術の一つであり、常に予測性、準備性、即応性を持った対応が求められる。多様な救急場面において速やかに行動できるように本科目では心肺蘇生について科学的根拠に基づいた基礎知識、技術の習得を目的とし演習を取り入れて実践力を育成する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シミュレーターを用いて、急変時のアセスメントとBLS(basic life support)が実践できる 2 救急処置に用いられる主要薬剤の適応、作用副作用が述べられる 3 緊急処置の必要性を代表的な心電図波形を判断できる <p>【実務経験】山川俊紀:医師ならびにDMATの一員として豊富な経験を有する。 実践経験を教材とし、また、科学的根拠もとづく技術の習得が図れるよう授業展開する。</p> <p>【準備学習】□ 前回の授業の復習と次回の授業内容について予習し授業に臨む。</p> <p style="text-align: center;">[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 50%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">一次救命処置と二次救命処置(ACLS)</td> <td>1)心肺蘇生法</td> <td rowspan="15">一次救命処置と二次救命処置の違い</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2)気道確保・呼吸の補助・循環補助</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">気道確保</td> <td>3)チームの役割</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1)オトガイ拳上</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2)エアウェイ:経口・鼻腔</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td rowspan="3">換気と循環</td> <td>3)気管内挿管</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1)バッグ・マスク人口呼吸法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2)酸素投与方法</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="2">アルゴリズムの見方</td> <td>3)心臓マッサージ法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1)心肺蘇生のアルゴリズム、頰脈のアルゴリズム、電気的除細動のアルゴリズム、AEDのアルゴリズム</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td rowspan="2">外傷医療</td> <td>2)高エネルギー事故とは</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1)避けられた外傷死亡とは</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td rowspan="2">災害医療</td> <td>2)災害医療と救急医療の違い</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1)災害とは</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="2">災害医療</td> <td>2)トリアージの演習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>1)トリアージとは</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>2)トリアージの演習</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>1)シミュレーションなど</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>上記終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	一次救命処置と二次救命処置(ACLS)	1)心肺蘇生法	一次救命処置と二次救命処置の違い	2	2)気道確保・呼吸の補助・循環補助	3	気道確保	3)チームの役割	4	1)オトガイ拳上	4	2)エアウェイ:経口・鼻腔	5	換気と循環	3)気管内挿管	6	1)バッグ・マスク人口呼吸法	6	2)酸素投与方法	7	アルゴリズムの見方	3)心臓マッサージ法	8	1)心肺蘇生のアルゴリズム、頰脈のアルゴリズム、電気的除細動のアルゴリズム、AEDのアルゴリズム	9	外傷医療	2)高エネルギー事故とは	10	1)避けられた外傷死亡とは	11	災害医療	2)災害医療と救急医療の違い	12	1)災害とは	13	災害医療	2)トリアージの演習	14	1)トリアージとは	15	復習	2)トリアージの演習		試験	1)シミュレーションなど				上記終了後、期末試験	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																							
1	一次救命処置と二次救命処置(ACLS)	1)心肺蘇生法	一次救命処置と二次救命処置の違い																																																							
2		2)気道確保・呼吸の補助・循環補助																																																								
3	気道確保	3)チームの役割																																																								
4		1)オトガイ拳上																																																								
4		2)エアウェイ:経口・鼻腔																																																								
5	換気と循環	3)気管内挿管																																																								
6		1)バッグ・マスク人口呼吸法																																																								
6		2)酸素投与方法																																																								
7	アルゴリズムの見方	3)心臓マッサージ法																																																								
8		1)心肺蘇生のアルゴリズム、頰脈のアルゴリズム、電気的除細動のアルゴリズム、AEDのアルゴリズム																																																								
9	外傷医療	2)高エネルギー事故とは																																																								
10		1)避けられた外傷死亡とは																																																								
11	災害医療	2)災害医療と救急医療の違い																																																								
12		1)災害とは																																																								
13	災害医療	2)トリアージの演習																																																								
14		1)トリアージとは																																																								
15	復習	2)トリアージの演習																																																								
	試験	1)シミュレーションなど																																																								
		上記終了後、期末試験																																																								
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																								
講師より適宜配布		科目終了時の最終試験評価(筆記試験など):100% [授業参加状況(遅刻・早退を含む)]																																																								

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
看護技術演習Ⅲ	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1 単位 (30 時間)	必須	松本/榊原/鎌田 /山下 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ, 成人看護学実習Ⅰを終え、対象理解、看護過程の展開の実践している。3年次後期からは、専門分野の各領域の実習がはじまる。領域実習においては、急性期医療の観察・管理・看護を体験する。しかし、臨床場面では、実際の病状の流れが速く、主体的に考え、行動することが困難な状況である。そこで、本科目では、シミュレーション教材を使用することで、繰り返しじっくり技術を学び主体的に学ぶことを目指す。また、基礎・成人看護領域にとどまらず、3年次の臨床実習に向けて、小児・母性看護学領域に必要な看護技術を習得することもねらいとしている。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年看護学領域で必要なアセスメント能力及び看護技術を習得できる。 2. 小児看護学領域で必要なアセスメント能力及び看護技術を習得できる。 3. 母性看護学領域で必要なアセスメント能力及び看護技術を習得できる。 4. シミュレーター教材を使用し、繰り返し主体的に学習することができる。 <p>【実務経験】榊原・林・塩山: 看護師あるいは助産師として5年以上の実務経験。 学生の実習到達目標をふまえ学習到達状況にあわせて、知識・技術・態度の統合が図れるよう支援する。</p> <p>【準備学習】□ 事例対象を理解できるよう学習に取り組む。また、事例患者に必要な看護援助について練習する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	成人・老年領域実習技術	1) 本単元の進め方のガイダンス	フィジカルアセスメントモデルに表示されている複数の疾患について調べ学習 モデル人形の症状を観察 モデル人形の観察で得られた情報をアセスメント
2	演習	持続点滴中の患者の寝衣交換	
3	演習	〃	
4	演習	シナリオ学習	
5	演習	・医療現場で出会う患者さんの代表的な訴え・症状を4つの項目に分けて観察する総合的な学習	
6	演習	・フィジカルアセスメントモデルに表示された症状を看護技術を用いて観察する	
7	演習	・モデル人形で観察した結果をもとに、グループディスカッションし、必要な援助を考える	
8	技術試験		
9	小児領域技術演習	1) 本単元の進め方のガイダンス	モデル教材を使用しての観察、技術演習
10	演習	2) 新生児のバイタルサイン測定 3) 新生児の全計測	
11	母性領域技術演習	1) 本単元の進め方のガイダンス	モデル教材を使用しての観察、技術演習 技術評価
12	演習	レオポルド触診法、計測診、腹帯、産褥子宮モ 児頭の回旋と分娩の進行	
13	演習	2) 新生児のおむつ交換、調乳と授乳 新生児の抱き方、排気のさせ方	
14	技術試験	3) 新生児の沐浴	
15		4) 新生児のドライテクニック演習	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・既存のテキストすべて ・基礎看護技術 ベーシックス 医学芸術社 ・NANDA-I看護診断		成人・老年領域技術試験50% 母性領域技術試験50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人看護学Ⅱ実習 (急性期・回復期)	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 時 間 数	単位数(時間数)		授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	高橋 加代/山下 美紀 他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 成人看護学Ⅱ実習では、成人看護学領域の知識・技術を統合し、急性期から回復期にある対象の健康生活をアセスメントし、対象の健康レベルに応じた看護援助を展開する。急性期から回復期、周手術期の看護も含み、看護実践を通じて成人期にある患者・家族における看護専門職の役割と看護課題について学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】高橋・山下他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容] 実習病院において、治療をうける成人患者を受け持ち、以下の目標にそって実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベル(急性期、回復期)とその症状に応じて看護を行なう。 (詳細については、実習手引き参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、急性期から回復期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程展開する基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解し、対象のもつ問題を把握する。 2. 急性期から回復期にある対象の状態に応じた看護過程を展開できる。 3. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. 対象とその家族と円滑なコミュニケーションをとることができる。 5. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使用したテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (評価においては評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
成人看護学Ⅲ実習 (慢性期・終末期)	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	吉田 展子 / 鎌田 寿子 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>成人看護学Ⅲ実習では、成人看護学領域の知識・技術を統合し、慢性期から終末期にある対象の健康生活をアセスメントし、対象のQOL・健康レベルに応じた看護援助を展開する。慢性期から終末期には、化学療法、放射線療法、臨末期にある看護も含みチーム医療、他職種との連携協働し、社会資源の活用などを通して成人期にある患者・家族の看護について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2. 慢性期から終末期にある対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3. 慢性期から終末期にある対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】三好・榊原他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開></p> <p>実習病院において、治療をうける成人患者を受け持ち、以下の目標にそって実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベル(慢性期・終末期)とその症状に応じて看護を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、慢性期から終末期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程を展開する基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使用したテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
老年看護学Ⅱ実習	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	林 晶子 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の発達段階と加齢の現象および健康障害による問題を把握し、統合的に理解する。 2. 対象とその家族に応じ、臨床現場の実際に即した看護が展開できる能力を養う。 <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象の持つ問題を把握することができる。 2. 対象のセルフケア能力をふまえ、看護計画を立案し残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 健康障害の複雑性・多様性を理解し、既往症や障害など、健康レベルに応じた援助ができる。 4. 看護に携わる専門職としての使命と責任を自覚して自己の老年観を見出すことができる。 <p>【実務経験】林晶子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】<input type="checkbox"/> 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p>実習病院において、検査・治療・処置などを受ける老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージにおける老年期の発達課題を考えることができる。 2. 老年期の特性を理解し、その人の死生観、生きがい等を知ることができる。 3. 老人福祉の現状と問題を知り、系統的に理解することができる。 4. 老化に伴って起こる疾病・障害に応じた、基礎的看護技術や日常生活への援助技術(入浴・洗髪介助、更衣介助、食事介助、トイレ誘導、おむつ交換など)ができる。 5. 人間としての終末期にある状態を知ることができる。 6. 社会資源の活用法を学ぶことができる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使用したテキスト及び演習で配付した資料など ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護学実習	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	榊原智子他 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

小児の成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にある小児および家族に対して適切な看護が実践できる能力を養う。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

- 1.健康な小児の身体的、心理・社会的発達の特徴を理解し、発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本が把握できる。
- 2.健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児をとりまく家族の状況を理解し看護を展開できる。
- 3.健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。
- 4.保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。

[実務経験]榊原智子他:看護師として5年以上の実務経験

これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

[準備学習]□

実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む

[授業の内容]

＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照

1. 保育所実習(1週間)
 - 1)保育所での実習で、健康な小児(乳幼児)の成長発達を把握する。
 - 2)発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本を把握する。
2. 病院の病棟実習(2週間)
 - 1)健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児を取り巻く家族の状況を理解し、看護を展開する。
 - 2)健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。
3. 病院の外来実習、病棟及び病棟の未熟児室をローテート
 - 1)保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。

[参考資料]

- ・奈良間美保:系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2
- ・NANDA-I看護診断
- ・配布した資料等

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)実習評価表による評価
- 2)事前学習、課題レポート、カンファレンスへの参加状況等で総合評価を行う
(詳細については、評価表参照)

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
母性看護学実習	看護学科/3年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	松本 美弥 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の特徴を身体的・精神的・社会的に認識し、看護理論とフィジカルアセスメント結果を用いて対象(妊婦、産婦、褥婦)の健康問題・課題について看護判断し看護を実践できる能力を養う。 2. 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。 <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護対象者を経過(妊娠、分娩、産褥期)に応じて理解し、援助(看護過程の展開)ができる。 2. 臨地実習を通して自己の母性や父性について考え、生命倫理について認識できる。 3. 母子相互作用を理解し、褥婦の健康・生活の維持と母子関係成立への援助ができる。 4. 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 <p>【実務経験】岡田佳子:助産師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p style="margin-left: 20px;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある母子を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 実習部署は、産科病棟をはじめ、産婦人科外来、分娩室、新生児室をローテートする。 3. 分娩があれば産婦の了解を得て、分娩第1期～分娩後2時間までの経過を見学実習する。 4. 個別・集団指導の見学、及び必要に応じて企画・実施する。 5. 実習前に基本技術、基本知識のプレテスト、終了時に同様のポストテストを行い、評価に反映させる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
疾病治療学Ⅲ(周産期疾患)、母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料など		1)実習評価表による評価 2)出席状況(遅刻・早退を含む) 3)事前学習、カンファレンスへの参加、等 (詳細については、評価表参照)	

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科／学年	年度／時期	授業形態
地域看護学実習	看護学科/3年次	令和3年度	講義・演習 (実習)
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	1単位 (45時間)	必須	佐藤 洋子 他 (実務経験有)
[授業の目的・ねらい] 生活者として看護の対象である個人および個人を取り巻く地域(環境も含む)、地域で行われている看護の実際の場面を理解し、生活に即した人々への健康教育の実際、1次予防から3次予防までの支援の継続性の理解、組織・関係職種との連携について学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 地区行事(活動)を通じて地域の一員であることを実感でき、地域とのつながりがもてる。 2. 地域コミュニティの意義とあり方が理解できる。 3. 健康診断を通じての人々の健康への支援及び、かかわりの実際を通じて、看護師の活動の場が理解できる。 4. 看護の対象としての個人および家族、集団・組織を含む支援活動について理解できる。			
【実務経験】 佐藤洋子他:保健師(他の教員は看護師)として5年以上の実務経験 これまでの地域・施設での看護実践経験を活かし学生の実習目標到達に向けて支援する			
【準備学習】 □ 実習前オリエンテーションならびに実習の手引きにより実習目標、実習展開等を理解し、看護実践に必要な事前学習に取り組む			
[授業の内容]			
<実習展開>		詳細は、「実習の手引きを」参照	
1. 実習場所・施設等 1)保健所・保健センター 2日 (事前学習と学びの共有を含む)高松保健センター等 2)産業保健 1日 株式会社 タダノ 臨地実習 3)地域コミュニティ協議会 2日 (二番丁コミュニティ協議会の避難訓練、高齢者居場所づくり) 4)病院内防災訓練 1日 高松赤十字病院			
2. 実習前に学内において、担当教員より実習計画等のオリエンテーションを受け実習に備える。			
3. 施設での地域に向けた連携や他職種との連携について、常に念頭に置き実習に取り組む。			
4. 各実習終了後に、課題レポートの提出をする。			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
実習内容に関するテキスト		1)実習評価表による評価 2)出席状況(遅刻・早退含む) 3)実習態度(カンファレンスのへの参加状況等) 4)実習レポート 20% } 80%	